

---

## アイヌタイムズ第21号日本語版

---

---

### エント（ナギナタコウジュ）

エント（ナギナタコウジュ）は、匂いが強いので、病の神がいやがると言われています。別の名は、セタエントやセタントとも言います。

川上まつ子さんは、次のように言いました：「何でもサヨキエント入れたり、キキンニ入れたりして食べるのが好きであったんだよね。わしらの口には、あんまり好きでなくてくさい物、

くさい物っていえば、おっかあ笑ったり怒ったり、こういうの食べてれば病気しないんだっていったもんだけど。」

中本ムツ子さんは、次のように言いました：「頭が痛くなると、母はナギナタコウジュを取りに外に行きました。あかゆの中に入れてさじで食べさせてくれました。」

「知里真志保の分類アイヌ語辞典」には、こう書かれています：「莖（くき）葉は、多量に採取して、陰干しにして、お茶のようにして飲みました。風邪にかかった時も、これを煎じて飲みました。」

青木愛子さんは、次のように言いました：「サタエントを水から煮立て、その蒸気を吸わせませす。この時、鍋を下ろして、その鍋の上に顔をもっていき、蒸気を吸います。頭から毛布か何かをすっぽりかぶせると蒸気は逃げず、患者は全身から汗をかいて、風邪が抜けませす。この治療の時、サタエントの煮汁を飲んでも発汗ませす。この蒸気を吸う方法をヤイスマウカラ（yay-su-maw-kar）と言います。」

エントは、日本、アジア、ロシア、ヨーロッ

パに生えています。山に生えたり、道ばたに生えませす。30cm から 60cm ほどになり、秋には花穂（かすい）がなりませす。花穂（かすい）はナギナタのようなので、日本ではナギナタコウジュ（シソ科）という名前です。

エントは、「*Elsholtzia ciliata*」という学名です。「*ciliata*」は、緑毛のあるものという意味です。漢方では、香需（編註：この需は、正式には草かんむりに需という字でした）と呼ばれませす。

エントは、少しの精油を含んでいます。精油は強い匂いの元です。精油成分には、エルショルチアケトンやナギナタケトンなどがあります。精油は、血行を盛んにし、発汗を促進し、解熱する作用があると言われられています。

〔横山 裕之〕沙流・千歳